

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）  
総括研究報告書

平成27年度 肝炎等克服政策研究事業の企画及び評価に関する研究  
研究代表者 山内 和志 国立感染症研究所 企画調整主幹

研究要旨

厚生労働科学研究費補助金肝炎等克服政策研究事業を適切かつ円滑で効果的に実施することは、厚生労働省の肝炎対策の推進において必須である。本研究は、肝炎研究等の専門家による同事業で実施する研究課題についての研究の企画と評価を行うとともに、肝炎研究の企画・評価に必要な情報収集・調査の実施、円滑かつ適切な研究評価を行うため研究情報の共有や評価の円滑化のための方法の検討・改善について研究し、肝炎等克服政策研究の推進に資することを目的として研究を実施した。

A．研究目的

厚生労働科学研究費補助金肝炎等克服政策研究事業を適切かつ円滑で効果的に実施することは、厚生労働省の肝炎対策の推進において必須である。本研究は、肝炎研究等の専門家による同事業で実施する研究課題についての研究の企画と評価を行うとともに、肝炎研究の企画・評価に必要な情報収集・調査の実施、円滑かつ適切な研究評価を行うため研究情報の共有や評価の円滑化のための方法の検討・改善について研究し、肝炎等克服政策研究の推進に資することを目的とする。また、その成果を「肝炎研究10カ年戦略」等踏まえた行政・国民ニーズに即した肝炎関連研究の一層の推進に役立てることで、肝炎等の脅威から国民の健康や生活を守ることにつながると期待される。

平成27年度は、研究の企画と評価については、同事業で実施する研究課題を対象に研究代表者及び研究協力者（プログラムオフィサー）による研究の進捗状況の把握とアドバイス調整を行う。研究成果に関す

る情報の収集・共有等を通して肝炎研究等の専門家（評価委員）による研究課題の評価を支援する。また、情報収集、調査については、肝炎等に関する関連会議への出席等を通して国内外の関連研究・関連施策等に関する情報を収集する。

評価方法の検討については、研究成果の共有やより円滑かつ適切な評価の実施に資する業務分析を行う。

B．研究方法

1．肝炎等克服政策研究事業の企画・評価等の支援

平成27年度に肝炎等克服政策研究事業により実施された公募研究課題（一般公募型及び指定型）に関して、厚生労働省が行う研究の企画・評価等の支援を行うため、

1)～4)を実施した。

- 1) 肝炎等研究の専門家による評価組織（以下「評価委員会」という。）との連絡、情報共有等の実施
- 2) 研究協力者（プログラムオフィサー）等による研究班会議への出席及び研

究の進捗状況の把握、ピアレビューの  
実施と評価委員会への情報提供

- 3) 肝炎等克服政策研究事業において実施されている研究課題を対象とした研究成果発表会の実施
- 4) 研究協力者（プログラムオフィサー）と厚生労働省担当者とともに班会議の情報を共有する目的で開発した「班会議情報システム」を活用し、情報共有、情報交換が一段と深まるよう、活動を支援

2. 研究の企画・評価等の支援方法の検討  
上記1) 2)の実施を通して、今後の研究の企画・評価、研究実施に対する効果的・効果的な支援方法についての検討を行った。

（倫理面への配慮）

本研究課題においては、患者等の診療情報や試料、実験動物を用いることはなく、人を対象とする医学研究に関する指針等に関して特に配慮すべき内容は含まないが、研究者の個人情報や研究課題内容に関する情報等を収集することから、その取扱いについては研究者等に不利益を与えないよう十分に配慮した。

C. 研究結果

1. 平成27年度実施課題（1）の評価  
（中間・事後評価）

1 平成27年度肝炎等克服政策研究事業の公募研究課題
2 年目研究課題 課題【資料1】
3 年目研究課題 課題【資料2】

1) 研究の進捗状況の把握及びピアレビュー

ー

平成27年度に肝炎等克服政策研究事業において研究を行う研究代表者に対し、研究班会議開催についての情報提供を依頼し、本研究課題研究代表者（山内）及び2名のプログラムオフィサーならびに厚生労働省担当者が分担して出席可能な研究班会議に出席した。なお、班会議の情報提供があった研究班に対しては、すべて対応している（平成27年度研究課題9件全て）。

オブザーバーとして、プログラムオフィサーに研究班会議への出席を依頼し、各班の研究内容に関して情報収集を行うと共に、研究班へのアドバイスも行い、研究班会議出席後にプログラムオフィサーが作成した報告書を取りまとめた上で、評価委員へ参考資料（【資料3】肝炎等克服政策研究事業の企画及び評価に関する研究PO意見一覧）として提供する等の一連のプロセスを実行することで、研究事業の質の担保や、研究の円滑な実施、更には評価委員による適切な評価に貢献した。また、PO会議を実施し、各研究班の進捗状況の把握や支援に関する情報共有について、「班会議情報共有システム」の検証ならびに、今後の研究推進の支援方法の改善や研究成果の活用について検討を行った。POは日本医療研究開発機構（AMED）のPOを兼務していることから、感染症に関する研究開発との関係についても意見交換を行った。

2) 研究成果の取りまとめ

全課題の研究代表者に対して成果概要の作成を依頼し、その取りまとめを行った。この成果概要は、評価委員による評価資料とした。

3) ヒアリング・研究成果発表会の実施

中間・事後評価委員会開催前に、2年目研究課題及び3年目研究課題を対象に、平成28年1月25日に研究成果発表会を実施した。研究成果発表会は、評価委員によるヒアリング等の場とするとともに、他研究課題の成果を共有する機会として肝炎等克服政策研究事業の研究代表者及び研究分担者にも参加を案内した。その結果、30名の参加者を集め、肝炎等克服政策研究事業の各研究班における研究成果をより多くの研究者が把握することができた。

同様に、事前評価委員会開催前に、来年度新規公募課題に対して、平成28年2月12日にヒアリングを実施し、事前評価委員が応募課題の内容をより深く理解し、評価することを支援した。

## 2. 研究の企画・評価等の支援方法の検討

### (1) 評価支援システムの活用

これまで開発・運用してきたシステムを積極的に活用し、評価業務の効率化を図った。また、評価入力、集計業務、データ保存等の機能追加を行い、システムの強化及び改善を行った。更にセキュリティ強化のため、より安定性及び安全性の高いサーバへの移行等を行った。

また、円滑かつ適切な情報共有や研究の評価方法の手順について、これまで行ってきた改善方法等が各研究の推進に貢献したかに関して、検証を行うため、評価委員に対してアンケート(【資料5】研究評価支援システムならびに班会議情報共有システムに関するアンケート)を実施した。

### (2) 班会議情報共有システムの活用

平成26年度より実施した、POと厚生労働担当者と共に班会議の情報を共有するための、インターネットを利用した「班会議

情報共有システム」を積極的に活用し、当事務局で得た班会議開催情報をこのシステムから、PO、厚生労働担当者に発信することにより三者間の情報共有、情報交換が効率化され、各班会議により迅速に対応できるようになった。また、セキュリティ強化のため、より安定性及び安全性の高いサーバへの移行等を行った。

また、円滑かつ適切な情報共有や研究の評価方法の手順について、これまで行ってきた改善方法等が各研究の推進に貢献したかに関して、検証を行うために、POに対してアンケート(【資料4】研究評価支援システムならびに班会議情報共有システムに関するアンケート)を実施した。

### (3) 肝炎に係る広報活動

更に、研究協力者の布施は国立感染症研究所戸山庁舎の一般公開等の場を活用し、本事業の研究に関連するアウトリーチ活動を行うことで、肝炎等に関して国民及び社会の理解増進を図った。

## D. 考察

B型、C型肝炎ウイルスの感染者が多い現状において、肝炎対策の緊急的かつ適切な推進が求められている。このため、肝炎等克服政策研究事業において、肝炎研究を総合的に推進する体制整備が図られたことは、非常に重要であり、その研究成果が、厚生労働省における肝炎対策を推進するための基盤となっている。本事業により我が国の肝炎関連研究がめざましく進み、その成果は国際的にも大きな評価を得ていると考えられる。

近年、新たな治療法の開発や宿主と病原体双方のアプローチからの研究手法の進歩、治療支援に係る制度の変更、海外からの流

入と考えられるHBV感染の拡大の顕在化等々、今後とも適切に対応すべき課題も明らかとなっており、これらに対する適切な対応の基盤となる研究を一層推進することが求められている。

肝炎等政策研究事業をさらに推進するためには、研究課題の適切な設定と研究者(組織)の選定及び研究費の効率的・効果的な配分、研究課題の実施支援と適切な評価、さらにその評価を踏まえた課題の設定と研究者の選定、というサイクルを適切に回していくことが基本である。そのため、研究を取り巻く情報、研究の進捗状況や成果に関する情報及びこれらを踏まえた評価とその結果のフィードバックが研究の評価者及び実施者双方に対しても十分に行われることが重要であることから、本事業において、肝炎関連研究に関する情報の収集、評価委員と研究者、行政担当者との円滑な共有や、研究事業の企画・評価及び研究の実施のための情報提供を行ったことは、本事業推進に寄与したと考えられた。平成27年度研究評価の手順の確立に向けて、評価支援システム及び班会議情報共有システムについて、利用者のアンケート調査で一定の評価が得られた。

#### E．結論

今年度においては、肝炎等克服政策研究事業において実施される研究課題の企画・評価及び研究の実施の支援を行うとともに、その実施を通して、さらに適切かつ円滑な支援方法等の改善について検討を行い、肝炎対策の推進に資する研究の効果的・効率的な実施に貢献したと考えられた。

具体的には、研究成果発表会ならびにヒアリングの開催や、POが班会議に参加し、

その報告を評価委員会委員へ報告することを通じて、研究のより良い評価に貢献した。加えて、「研究評価支援システム」、プログラムオフィサーと厚生労働省担当者とともに班会議情報を共有する目的で開発した「班会議情報共有システム」を、積極的に活用し、効率的な評価に貢献した。

また、本事業に関連するアウトリーチ活動を行い、肝炎等に関して国民及び社会の理解増進を図った。

F．健康危機情報  
なし

G．研究発表  
なし

H．知的財産権の出願・登録状況  
なし